

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

October 10
2019

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可
2019年10月1日発行(毎月一回発行)第742号

● 出会い・本・人

蔵書に隠された謎 陣内大蔵

● 特集「キリスト教の霊性」を学び直すなら

この三冊! 打樋啓史

● 本・批評と紹介

大嶋重徳著 若者に届く説教 関川泰寛

教皇フランシスコ、ドミニック・ヴォルトン著/戸口民也訳

橋をつくるために 山岡三治

マリオ・トルチヴィア著/北代美和子、筒井 砂訳、高祖敏明監訳

ジヨヴァンニ・バッティスタ・シドテイ 鈴木範久

片柳弘史著 ぬくもりの記憶 小島誠志

ミラ・ゾンターク 編

〈グローバル・ヒストリー〉の中のキリスト教 加藤喜之

日本キリスト教団出版局 編

説教黙想アレティア エレミヤ書 野村 稔

大澤秀夫、真壁 巖監修/酒井 薫、望月麻生、吉新ばら執筆

かみさま、きいて! 小見のぞみ

ラインホルド・ニーバー著/高橋義文、柳田洋夫訳

人間の本性 千葉 眞

既刊案内

書店案内

組織神学 第一巻

待望の邦訳ついに刊行開始

ヴォルフハルト・パネンベルク／佐々木勝彦訳

キリスト教の真理要求をあくまで保持しつつ、歴史的省察と体系的省察とを絶えず結合し貫徹しようとする批判的・方法的意識に貫かれた精密な叙述。第一巻では組織神学の本質、キリスト教の真理性の意味、そして神論を扱う。全三巻。

9月25日

◆A5判・本体9000円

バルト神学とオランダ改革派教会

石原知弘（東京恩寵教会牧師）

危機と再建の時代の神学者たち

バルト神学受容史として興味深いのみならず、神学と教会と社会の関係をめぐる20世紀オランダ改革派の教会史・神学史としても貴重な知見を提供する。

◆四六判・本体1100円

アモス書講義

改革者の肉声が聞こえる！

ジャン・カルヴァン／関川泰寛「監修」／堀江知己「訳と解説」

大好評

ヘブライ語原典を自らラテン語に訳し、逐条的に入念なパラフレーズを行う。創設間もないジュネーブ大学で語られた講義の、ライブ感溢れる記録。

◆A5判・本体5000円

夜と霧の明け渡る日に

未公開書簡、草稿、講演

ヴェクトール・フランクル／赤坂桃子訳

名著成立の秘密！

大好評

強制収容所からの解放と帰郷というフランクルの人生で最も重要な時期の伝記的な事実と、当時の中心思想の一端を、貴重な文書を用いて再構成。名著『夜と霧』誕生の背後にあった個人史と時代史の二つの文脈が初めて明確に交差する。

◆四六判・本体2400円



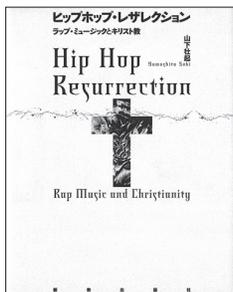
ヒップホップ・レザレクション

ラップ・ミュージックとキリスト教

大反響

山下壮起（阿倍野教会牧師） ヒップホップはなぜ繰り返し神や十字架を歌うのか。アフリカ系アメリカ人の宗教史を背景にラッパーたちの歌詞を聴き、その深い宗教性を浮かび上がらせた、気鋭の神学者による注目作。

◆A5変型判・本体3200円





蔵書に隠された謎

陣内大蔵

牧師室の本棚の一角に、父親から譲り受けた古い本のコーナーがある。カルバン基督教要綱をはじめ、シユバイツァー著書、ブルトマン著書、シユラッター、トウルナイゼン、テイリツヒなどキリスト教古書コーナーの様相。この一角には少し特殊な特徴がある。それは、陽に焼けて変色した本の箱の背に無数の小さな穴が開いていることだ。無傷の本もあるが、一つ二つ穴のあるものから五、六個の穴があいている本までが並んでいる。ちなみに最大の被害本は八つの穴があいている、『新約聖書の謎』ホスキンス／デイヴィ共著、日本基督教団出版部、一九六四年、である。

この穴の正体は、四〇数年前に小学生だった僕がダーツの矢であけてしまったものである。書斎の本棚に向かってダーツの矢を投げてあけた無数の穴たちなのだ。当時、学校でイジメのようなものを受けていた僕は子どもなりに鬱屈していた。アメリカへの長期研修で父不在の時期

でもあり、僕は牧師室に忍び込んでダーツの矢を父の本棚に向けて繰り返し投げた。きっかけは覚えていないが、親にも言えない憤懣やる方ない気持ちを確かにそこにぶつけていたのだった（恐れていたほど父に怒られなかったという記憶もある）。

大学神学部を中退して音楽の道で生きてきた僕は三十代終りに神学校で再び学び直した。その時に牧師引退直前の父から譲り受けた本である。受け取った時には気付かずにすっかり忘れていたが、授業の為にジョン・ブライトの『イスラエル史』を手にした時にその穴たちと再会した。まるで昔の自分の心の傷を見るような不思議な感覚。この神学書たちは少年だった僕の当時の心の痛みを文字通りその身で受け止めてくれたのだな、とそんなことを思った。復活のイエスの体の傷跡におののくトマスのような気持ち？

で、僕はそつとその穴たちに触れてみたりのだった。（じんのうち・たいごう＝日本基督教団東美教会牧師、シンガーソングライター）



「キリスト教の靈性」を学び直すなら この三冊!

打樋啓史

(うてび・けいじ) 関西学院大学社会学部教授・宗教主事)

「靈性／スピリチュアリティ」という

言葉は、近年、医療などの領域で用いられませんが、そもそもキリスト教に起源をもちます。一七世紀フランスで「神秘主義」と同義で使用され、以後も特にカトリック教会で修道者や聖職者の生き方を特徴づけるものとなりました。しかし二〇世紀後半、特定の人々に限定されないすべての信徒の信仰と生活に関するものとして注目されるようになり、カトリックのみならずプロテスタントでも同様でした。

今日、キリスト教で靈性というとき、

個々の信徒が日常の中で、知性だけでなく心と体をもつ全体的存在として、どのように神の愛を体験し、福音を受容し、それを具体的に生きていくかが中心テーマとなります。日本でも靈性についての関心は高まり、関連する書物も多く出版されるようになりました。その中から三冊を紹介します。

『砂漠の師父の言葉』

キリスト教の靈性の伝統において重要な源泉となるのが、三世紀末から五

世紀の初期の修道者たち、すなわち砂漠の隠者たちの言葉です。ローマ帝国のキリスト教迫害が終わり、教会が国家によって保護された集団になり、信仰の表面化が強まっていった頃、多数の男女が福音の本来の精神に立ち帰ろうとして、エジプトやシリアなどの砂漠に赴きました。その最初の人アントニオスはよく知られています。

「砂漠の師父、師母」と呼ばれるこの人々は、荒野の洞窟や庵などで独りまたは数人で暮らし、日々沈黙と祈りを中心に、単純な労働に従事し、断食などを行いました。彼らの言葉は修道者たちの間で口承され、五世紀頃ギリシア語で文書にまとめられます。本書はそのテキストの日本語訳です。

砂漠の隠者たちの生活は現代人の想像を絶するものですが、彼らが弟子たちや訪問者たちに語った言葉は、時空を超えて私たちの心に響きます。それ

は、素朴な語り口で語られる深い知恵

の言葉、厳しくも愛に満ちた言葉です。師父母たちは砂漠での生活を通して、富や権力で自尊心を保とうとする幻想から解放され、神に愛される本来の自己に立ち返ろうとしました。砂漠はそれを可能にする場所でした。それゆえ彼らの靈性の中心は、神の前で独り静まるという単純な営みでした。「あなたにやって来るすべての苦しみに対する勝利とは、沈黙することである」(ポイメン・三七、二四六頁)。

砂漠での沈黙と祈りは、彼らを謙遜へと導きました。「わたしたちを救うのは、苦行でも徹夜でも、どのような労苦でもなく、ひとえに真の謙遜です」(テオドラ・六、一二四頁)。自分の罪深さを徹底的に認識し、心砕かれた謙遜を生きるなら、人は神を受け容れる器になると語られます。

彼らは人を避けて砂漠に逃れたので

すが、逆説的に、そこで静まる中から

他者に開かれていきました。彼らは、訪問者をねぎらい、助けを求める人になることを最も大切な務めとします。街々や村々から多くの信者や聖職者が彼らを訪ね、助言や慰めを求めました。彼らの探求の賜物は自分のためだけでなく、教会にとつての賜物となっていたのです。

内なる砂漠で独り静まり、自己を回復し、他者に心開かれていく。砂漠の師父母たちはそのような靈性へと私たちを招いてくれます。

『静まりから生まれるもの』

靈性に関する著作家として日本でもよく知られる、オランダ出身のカトリック司祭ヘンリ・ナウエン。この小著はナウエンのごく初期の作品で、イエール大学の教会での説教がもとになったものです。三部から成り、独り静まること、配慮すること、待ち望むことと

いうテーマが取り上げられます。

第一部では、イエスのすべての働きが人里離れた所で独り静まるという「中心」から生まれていたこと(マルコ一・三五)に注目され、この中心を欠いた生活がいかに破滅的なものになりうるか示されます。静かな中心を失うと、人は人生の価値を自分の成し遂げたことよって測るようになり、絶え間ない不安と恐れに引き込まれていく。しかし、独り静まる中で、自分の存在の価値は自分のしたことにはなく、自分を創り愛してくださる方の中にありと気づくのです。

その静かな中心から、真の配慮が生まれてくる。第二部はこれを語ります。結果重視の社会では愛の配慮よりも救済だけに価値がおかれ、それがいかに危険かナウエンは示します。「ケア」は語源的に「共に痛み悲しむこと」を意味し、本当のケアとは、人の痛みを

治せなくても、黙って傍らに居ること、その人の悲しみに一緒に向き合うことだと説かれます。自分の無力さを認めつつ、互いの痛みに連なることができれば、「苦しみを取り除くためにはなく、分かち合うために来られた神の配慮」(五九頁)に与ることができ、そこから新しい共同体を創り出すことができるのです。

第三部のテーマは、神がすべてにおいてすべてとなる日待ち望む終末論的希望です。自分の限界を超えたと先を待たず、期待しつつ待ち望む心がなければ、愛の配慮を持続させることはできません。ここでは待ち望むことについて「忍耐」と「喜び」という二つの面から語られます。予期せぬ出来事によって計画が妨げられるとき、失望せず、それが来たる日に向けて自分を鍛える機会であると忍耐して信じるなら、それは新しい命と交わり

が生まれ出る所となる。さらに、待ち望むこと自体が人生に喜びをもたらすということ。明日を信じるなら、今日をよりよく生きることが出来る。神を信じて待ち望むなら、自分たちの真中に神がすでにおられることに気づくのです。

本書全体から、この三つの相は霊的生活の中で有機的に関連しあい、互いを育むものであることが示されます。そこに、霊性に関する重要な鍵があることをナウエンは教えてくれます。

『テゼ 巡礼者の覚書』

二〇世紀以降のキリスト教の霊性の展開にとって大きな意味をもつのがテゼ共同体の存在です。テゼとはフランスの小さな村の名、またそこで一九四五年に創始された超教派の男子修道会の名です。現在テゼにはプロテスタントとカトリックを出身とする約百名のブラザーがいて、分裂に満ちた

世界に和解を創り出すことを目指して、祈りと働きを続けています。

今日、テゼの名は日本でもよく知られ、特にその歌に広く関心がもたれていますが、テゼの本質についてはまだ十分に理解されていません。本書はテゼを知りたい人にとっては最良の入門書です。テゼの歴史について簡潔に述べられ、テゼが生きようとする霊性の核心が語られ、テゼを訪れる人にとって具体的なガイドブックとしての役割も担っています。

テゼの特徴のひとつは、そこが世界中から多くの若者たちが訪れる場所となっていることです。フランスの片田舎、刺激的なものは何もないように思えるこの場所に、年間十万人を超える若者たちを惹きつけるものは何なのか。テゼと親交が深かった正教神学者オリビエ・クレマンは記します。

「今日の若者たちは、福音の現実、

すなわち交わりについての説教や議論には関心がありません。彼らは、その交わりが本当に体験できる場所を求めているのです。それは、どんな背景や苦悩を背負った若者も例外なく受け入れられ、大切にされる場所のことです。またそれは、内なる霊性と世界の苦悩

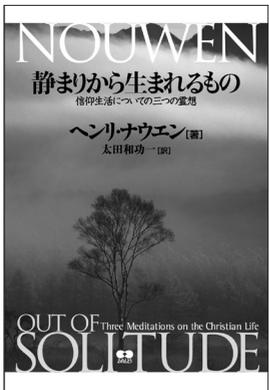
に関わる創造性が不可分に体験できる場所のことです。(･･････)わたしにとって、テゼはそのような道を誠実に模索する具体的な場所なのです」(五二頁)。

本書では、テゼが模索し、若者たちと分かち合おうとしてきた「道」——静かな中心から、人々を迎え入れ、世界

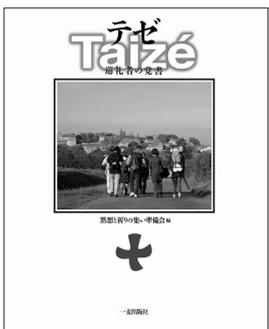
『砂漠の師父の言葉』
ミーニュ・ギリシア教父全集より
谷 隆一郎・岩倉さやか：訳
知泉書館
2004年刊
四六判 440頁
4500円 (税別)



『静まりから生まれるもの』
信仰生活についての三つの霊想
ヘンリ・ナウエン：著
太田和功一：訳
あめんどう
2004年刊
四六判 96頁
900円 (税別)



『テゼ』
巡礼者の覚書
黙想と祈りの集い準備会：編
一麦出版社
2013年刊
A5変型 142頁
1800円 (税別)



牧師・ユース・パスター・CS教師必携の書！

〈評者〉 関川泰寛



若者に届く説教
礼拝・CS・ユースキャンブ
大嶋重徳 Chikuo, Shigenori

若者に届く説教

礼拝・CS・ユースキャンブ

大嶋重徳著

本書は、教会や教会学校で説教の奉仕にあたる方々の必読書だと思います。大嶋重徳氏の説教や講演は、聴衆を魅了して離しません。笑いとともに、聴衆を悔い改めへと導きます。涙があふれるような経験を大人も若者も共有します。しかも、大嶋氏の説教は、わたしたちの心を操作するのではなくて、聖霊の働きによって、み言葉のところにわたしたちを連れて行く出来事となります。そんな力ある説教がどのように作成されるのか、本書は、説教論とともに説教作成の舞台裏も紹介してくれます。

わたしたちは、若者たちが成長すれば、きつとわたしの説教はわかるはずだ、わたしが彼らに迎合する必要はないなどと心の中で言い訳しながら、「届く言葉」を修得することを疎かにしてきたように思います。その結果、教会にはいつのまにか若者がいなくなりました。勇気を出して教

会の礼拝に出席した若者は、「届かない言葉」を耳にして、ここはわたしの来るところではなかったと落胆して二度と礼拝に戻って行くことはありません。

第一部で「若者に届く説教」が論じられます。「この課題を自覚していないとしたら伝道者失格」とまで断言します。出だしてパンチをくらって目を覚まされた読者は、すぐにルカによる福音書二四章のエマオ途上の物語に導かれます。そこに描かれた二人の弟子たちの心が燃える経験こそ、その人が「イエスだと分かった」出来事だと分析します。つまり説教が届くとは、その方が「イエスだと分かる」ということになります。ここから、著者は「説教の目的は、イエス・キリスト自身と出会うこと」と定義します。さらにギリシア語の五つの言葉、ケリュソー（宣べ伝える）、ユーアンゲリゾー（良い知らせを伝える）、デイダスコー

（教える）、パラカレオー（勧める）、マルテユレオー（証言する）に導かれて、説教とは何かを丁寧に説明します。

その上で、若者に届く説教を目指して、どのような修練や研鑽が必要かを具体的に示してくれます。本書の特色は、説教の本質論をしっかりと踏まえた上で、説教の実践、修練の方法が具体的に提示されているところにあります。以下は、評者自身が心に残り、ノートに書き留めた本書の一部です。

「説教をすることに真剣であり続けることです。自分の説教はすべて録音して何度も聴くことが大切です」「若者伝道の成果は、かけた時間に比例するというのが、私の確信です」「説教を届けるために一番大切なことは、説教者自身のリアリテイのある言葉です。その時に大切なことは、説教者が本当のことを語るといふことでしょう」「自分の

話をする時に、彼らに届くのは、成功談ではなく、失敗談を語るといふことでしょう」「今も完全原稿ですし、笑いを取りたいところも、すべて原稿に書いています。間を取りたいところは、忘れないように『大きな間』と書いています」「大切なことはイエス様がここで『ご自分について』語られたように、教理を自分の人生と共に語る必要があるということですよ」「若者向けの説教では、余計に説教者はより罪人である本人の葛藤やリアリテイを話してあげることが大切です。説教者が自分もまた罪の葛藤に苦しんでいる。そのことが彼らにとって朗報です。そしてあの牧師のように罪を赦されたいと思えるのです」

（せきかわ・やすひろ）日本基督教団大森めぐみ教会牧師
（A5判・一二四頁・本体二二〇〇円＋税・教文館）

十字架の光の中で詩編の言葉を聴きたい—FEBC番組を単行本化

詩編を読もう



全2巻

嘆きは喜びの朝へ ひとすじの心を

広田叔弘

詩編を読む「旅」のガイドブック。詩編と新約聖書と現代世界を自由に往還しつつ、詩編を読む喜びに私たちを招く。詩編のメッセージを汲み取るのは難しいと思う方にお勧め。各巻 四六判並製・224頁・本体2000円＋税

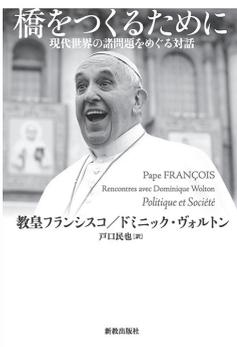
上巻で取り上げる詩 ▶ 第1編、第2編、第6編、第8編、第14編、第19編、第22編、第23編、第30編、第37編、第42編、第43編、第44編、第45編、第51編、第69編

下巻で取り上げる詩 ▶ 第70編、第72編、第80編、第86編、第87編、第88編、第90編、第95編、第96編、第100編、第115編、第118編、第119編、第121編、第127編、第130編、第133編、第137編、第143編、第150編

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格税別》
<http://bp-ucci.jp>

グローバリゼーションの中の ローマ教皇

〈評者〉 山岡三治



橋をつくるために
現代世界の諸問題をめぐる対話
教皇フランシスコ/ドミニック・ヴォルトン著
戸口民也訳

グローバリ化の時代のはじめての教皇 本書で教皇と対話したヴォルトン氏は、現教皇を「グローバリ化時代」のはじめての教皇と呼んでいる。「グローバリ化時代」の世界は「武器を製造し、売ることで、人間を金銭という偶像の祭壇に犠牲として捧げている」(二二、二四五頁)。この世界では、銀行が倒産すると恐慌を防ぐためあつという間に大金が注ぎ込まれるにもかかわらず、苦しみにあえいでいる難民たちにはその千分の一も集まらない。

難民・移民忌避の「おばあさんヨーロッパ」 本書で教皇は言う。難民や移民を忌避する態度は、自分たちがかれらのおかげで成り立ってきたことを忘れている証拠だ。わたしたちはみな移住者、みな難民であり、わたしたちの神学は難民の神学である。母となる力を回復し、連帯によって生命を大切にしよう」と教皇は求めている(一一二、

一五六頁など)。教皇はまだ絶望していないようだ。「わたしは夢見ています、若々しいヨーロッパを」と述べている(二五〇頁以下)。

橋を架けること 現代の多くの問題を解決するためには、異なるものどうしに「橋をかけること」が必要だ。それは、ある人が自分自身から抜け出して別の人とつながることであり、誰かの手を握るとき、他人の家を訪ねるとき、相手に謝罪するときである。そもそも神の子イエスが橋となられたのだ(三七頁)。基本は相手を探しに行くことであり、これは謙遜なしにはできない(三六二頁ほか)。

学校教育で正課に取り入れるなどして「対話の文化」を若者たちにも根づかせることが必要である。「誰一人排除することのない、公正で、過去をしっかりと記憶する社会の建設」を目指さなければならない。若者には「危険を冒

しなさい、行きなさい、赦しなさい、そして福音を宣べ伝えなさい」と教皇は言う(八七頁)。

教会の罪と刷新 教会はほんらい祭りと喜びの場である。「司祭は山羊の匂いがする羊飼いでなければならぬ」(五四頁)。それなのに、硬直した聖職者中心主義、信者獲得熱、過剰防衛に陥ってしまう。「教会は民衆、民です。……もしも教会を知りたければ、村に、……病院に、アメリカに行ってみてください。たくさんのお宣教師たちが、そこで身を粉にして働いています。彼らは真の革命を実行しているのですよ。改宗させるためではありません。……奉仕するためにそこにいるのです」(二四六頁)。

メルケル首相と教皇フランシスコ 教皇フランシスコが選出されると、メルケル首相はすぐ会見を申し込んだという(アンゲル・メルケル『わたしの信仰』、新教出版社、二〇一八)。教皇もメルケル首相を「ヨーロッパの偉大な

指導者」と呼んでいる(二三七頁)。今日、メルケル首相と教皇フランシスコの影響力は大きい。

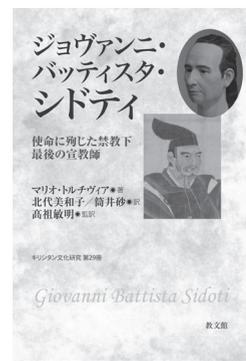
「はじめて」が多い教皇 教皇フランシスコは、ヨーロッパ出身でないのはじめての教皇であるし、フランシスコという名前も、イエズス会員であることも、「はじめて」が多い教皇だ。南米は「解放の神学」を生んだ地域であり、フランシスコは生涯貧しさを愛した。またイエズス会は教会の最前線に派遣されることを望む修道会である。実際、現教皇は、旅行で立ち寄る司祭のための宿泊施設に寝泊まりしているし、どの所持品も非常に質素である。

本書は教会やキリスト者が人々によりそって歩むよう暖かい言葉で励ましてくれるだろう。

(やまおか・さんじゅう上智大学名誉教授)
(四六判・四二二頁・本体二六〇〇円+税・新教出版社)

シドティを身近な人物に

〈評者〉**鈴木範久**



キリシタン文化研究第29冊
ジョヴァンニ・バッティスタ・シドティ
 使命に殉じた禁教下最後の宣教師
 マリオ・トルチヴィア著
 北代美和子・筒井 砂訳、高祖敏明監訳

本書は、キリスト教禁制下の日本への最後の潜行宣教師とされるシドティに関する最新の研究書である。

地下鉄丸の内線の茗荷谷駅を降りて歩いて数分あまり、かつて江戸の切支丹屋敷があった地に行き着く。それを記念して建てられている「都旧跡 切支丹屋敷跡」のもとに、筆者はこれまで少なくとも三、四回は訪れている。この場所を何度も訪ねているわけは、ただ「切支丹屋敷」があったというだけではない。そこに幽閉されていた宣教師シドティと江戸期の碩学新井白石との間に『西洋紀聞』と題される画期的な問答があったからである。その公刊こそ一八八二（明治一五）年だったが、すでに江戸時代に流布した内容により国内への洋書の伝播などにも影響を及ぼしていた。

その切支丹屋敷が最近になって急に新たな脚光を浴びる

イタリア語訳までも進めていたとされるが、惜しくも一九九八年に世を去ってしまった。

今回教文館から出版されたトルチヴィアの本書は、このコンタリーニのシドティ研究を飛躍的に進捗させたものみたい。その故郷パレルモにおける少年時代、家族、献身、ローマでの修業と教皇の前での演説、日本宣教の熱望と歩み、実に諸史料にもとづき的確に記述されている（著者自身もパレルモ出身の司祭）。日本に向けてローマを出発したシドティは、一七〇四年マニラに到着、同地で日本語の学習を進めるとともに神学校の建設にも努める。彼がはじめて屋久島に出現したとき、帯刀した武士の姿であったと報じられているが、これもフィリピン滞在中に、すでに日本での迫害を逃れて同地に滞住していた日本人から見

ようになった。それは、屋敷跡とされていた土地における

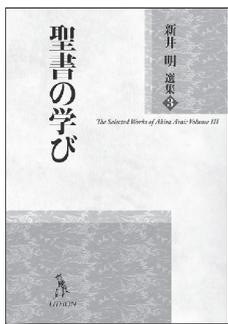
マンションの建設工事にもない、三体の人骨が発見されたためである。発見された人骨の科学的な鑑定作業の結果、一体が外国人で二体が日本人のものであることが明らかになる。その外国人もイタリア人であることが判明、そうなる

と遺骨はシドティと同一視してよくなる。（篠田謙一『江戸の骨は語る』岩波書店、二〇一八年）。

ところで白石が尋問した宣教師シドティとはどのような人物であったか。これに関する筆者のささやかな知識は、これまでのところザベリオ会神父コンタリーニによるものだった。コンタリーニは、一九八一年よりみずから屋久島に赴任して住むほどシドティの研究に努め、トルチヴィアの本書でも強調されている「シドッチでなくシドティ」という読み方も早くから主張していた。また『西洋紀聞』の

習った装いだだった。これらの適切な資料にもとづく解明はシドティの骨に肉付けを与え、よみがえらせている。それに加えて本書の訳者たちによる日本語関係文献の補いも忘れてはならない。たとえばシドティの死亡年をはじめとする補正などは、本書を著者と訳者との共著にひとしい書物とさせている。本書によりシドティがいつそう身近な人物になったと言つてよい。

（すずき・のりひさ 立教大学名誉教授）
 （四六判・三〇八頁・本体二四〇〇円＋税・教文館）



新井明選集〔全三巻〕 第三巻 聖書の学び

新井 明 著

日本女子大学名誉教授／
 今井館教友会前理事長

●A5判上製 310頁
 本体5,000円＋税

本巻に収められた新井明先生の「聖書の学び」は、二一世紀を生きる私たちに向けられた数々の示唆で満ちている。

（「解説」より）

本巻構成：第一部「各地での学び」、第二部「聖書の学び」、第三部「里のめぐみ」、第四部「目白台にて」、第五部「北越の敬和学園」、第六部「マシュー・ヘンリ」、第七部「雑業余録」、解説（月本昭男）。

ISBN978-4-86376-074-5

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
 ☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

淡々としかしまっすぐに

〈評者〉小島誠志



ぬくもりの記憶
片柳弘史著

著者片柳弘史氏はカトリックの司祭です。

本書「ぬくもりの記憶」はラジオ番組「心のともしび」

(二〇一一年一九年) 及び月刊誌「こどものせかい」

(二〇一一年一九年、至光社) に寄稿されたエッセイをもとに編集されたものです。

難解なところのないだれの心にもすうーと入ってくる語り口です。人の命について、命を意味あらしめている信仰について淡々としかしまっすぐに語りかけています。

本書は3部から成っています。

いずれも短文で原稿用紙(400字詰)で二枚弱、見開き2頁、読むだけなら一分で目を通すことができます。しかしそのメッセージは読んだ後、本を置いて考えないではおられない内容を含んでいます。著者の記憶の中に読者も自分の記憶を重ね合わせて物を思うのです。

第2章は「出会いの記憶」。神父になってから様々な人々との出会いの中で受け取った、そして著者を育てることにあった出来事が記されています。先輩のいるのは高齢神父たちの生きざまから学んだ多くの出来事が記されています。宿泊を許されたある修道院の部屋に入ると、「中でせつせとモップをかけている人がいる。」「すみません、掃除が間に合いませんでした」。振り返ったその人の顔を見て著者は驚きます。世界に知られた神父だったというのです。「自分でやりますから」と申し出た著者に対しきっぱりとこう答えました。「これがわたしに与えられた使命ですから、わたしにやらせてください」。

その他園児たちとの出会い、災害現場で考えさせられたことなどが記されています。

第3章は「日常の記憶」。日常の出来事の中で聖書の言葉が放つ新鮮な光を見出す著者の感動が記されています。

さて、第1章「旅立ちの記憶」。著者が信仰に導かれるプロセス、さらに司祭へと導かれるプロセスが記されています。関東の園芸農家に生まれ、キリスト教とは何のつながりもなかった著者がしだいに信仰に導かれていく過程が語られています。振り返れば、神社の幼稚園に行ったことにも導きがあったし、「24時間テレビ」の募金に加わったことも一つの道筋でした。口数少なく、家族のために黙々と働き続けた父親の生きざまから受け取ったものも小さくない。それらの延長線上で洗礼を受けることになりました。決定的なことはマザー・テレサとの出会いでありました。ボランティアとして働いていたあるとき、マザーに腕を掴まれこう言われた。「あなたはいつまで迷っているのですか」。この言葉を天啓と信じた著者は神父になることを決めます。

どの文章も納得させられ感動させられるものですが、特に評者の心に残ったものをあえて一つ紹介させていただきます。

ある若い神父が寝たきりの高齢者を残して他国に移動しなければならなくなりました。重い気持ちで彼が挨拶に行くと寝たきりの人は言いました。「では、あなたは健康の方で頑張ってください。わたしは、病気の方で最後まで頑張ります」。

「病気の人には、病気に負けず、最後の瞬間まで命を輝かせるという尊い使命がある。どれほどの困難な状況にあっても諦めないその姿は、たくさんの人々に生きる希望を与えることだろう。」と片柳神父は結んでいます。

(おじま・せいし 日本基督教団久万教会牧師)

(B6変型判・一三九頁・本体一〇〇〇円+税・教文館)

従来の狭隘な方法論を打破する 意義ある試み

〈評者〉加藤喜之



〈グローバル・ヒストリー〉の中の キリスト教

近代アジアの出版メディアとネットワーク形成
ミラ・ゾンターク編

編者のミラ・ゾンターク氏は、いわゆる「日本キリスト教史」の専門家であるが、世界史と自国史を分ける狭隘な方法論には満足せず、それを超えていく「グローバル・ヒストリー」というアプローチに光を見出す。なかでも彼女は一九九〇年代以降、キリスト教のグローバル・ヒストリーの発展に寄与してきたミュンヘン大学名誉教授クラウス・コシヨルケと彼の研究チーム「ミュンヘン学派」の仕事に注目し、彼らの方法論や業績の紹介、さらにはそれを批判的に検証することを本書の目的としている。

第一部では、コシヨルケ氏がこれまで発表した三本の論文が訳出されている。彼がなによりも重要視するのは、グローバル・サウスと呼ばれる地域におけるキリスト教徒が現在のキリスト教世界の多数派を占めているという事実である。キリスト教が西洋のものでなくなっただけでなく、その歴

史もまた西洋中心主義であってはならない。とはいえ、西洋という中心を排除し、それぞれの国のキリスト教史を並存させるだけでよいわけでもないだろう。それぞれの発展の相互作用に注目し、今日にいたるキリスト教の発展のなかでも複数の地域的な中心地が存在し、宣教師だけではなく現地人の働きの多様性にも注目しなければならぬからだ。さらにいえば、グローバルなキリスト教の発展は、二〇世紀初頭に限られるのではなく、初代教会から現代にいたるまでキリスト教という宗教のもつ特性として理解され、分析されなければならないという。

第二部では、こうした方法論が具体的な事例の検証に適用されていく。資料として注目されるのはアジア・アフリカの現地指導者たちによって刊行された雑誌である。それらを分析することで、「認知的相互作用」が明らかにされ

るといふ。というのも、こうした雑誌は宣教師が関係している場合もあったが、多くは既存の宣教師ネットワークを逸脱したものであり、とりわけ異なる地域の現地キリスト教徒たちがお互いの存在を認識し、それによって植民地支配者たちに対する緩やかな連帯を構築できたからである。例えば、日露戦争に勝利した日本に対する賞賛は頻出しており、汎アジア主義や汎アフリカ主義の発展に寄与したとされる。コシヨルケ氏によると、こうした雑誌は教会という狭い枠組にとどまらず、植民地における政治的な独立運動にも影響を及ぼしていたのだ。

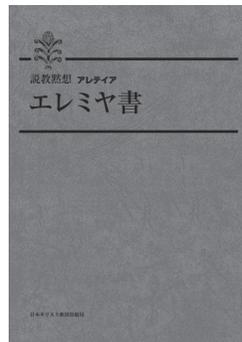
第三部では、主に東アジアでの事象が分析される。なかでもゾンターク氏の論文では、植民地からの解放を強調する「ミュンヘン学派」を批判的に検証しており、本書が海外の研究の単なる翻訳・紹介でないことがよく分かる。彼

女によると、日本における現地キリスト教徒による雑誌、例えば『七一雑報』や『福音週報』などをみると、むしろ初期の段階でかなり膨張主義的、自国中心的な視点が現れており、汎アジア主義の発展はみられないという。中国、台湾、朝鮮の現地指導者たちによる雑誌の分析からも多極的なキリスト教の発展と相互認知作用が明らかにされる。人名の表記の不統一や訳語の選択に疑問が残らないわけではない。しかし、日本における従来のキリスト教史には欠けていた視点を提供した優れた外国の研究を紹介し、またそれを批判的に検証することで独自の視点を提供する本書は、今後キリスト教史を学ぶものにとり必読書となるだろう。

(かとう・よしゆき 立教大学文学部キリスト教学科准教授)
(A5判・二九六頁・本体五二〇〇円+税・新教出版社)

今、エレミヤ書を読もう エレミヤ書で説教しよう

〈評者〉野村 稔



説教黙想 アレタイア
エレミヤ書
日本キリスト教団出版局編

説教の準備段階で黙想をする時、その説教者の信仰が現れる。聖書からどのような神のメッセージを聞き取り、礼拝の中で教会員に伝える言葉をどのように整えるのか。聖書は時に闘争を促しているように読むこともできるが、しかし罪の赦しと永遠の命の希望、さらに慰めを伝えている。さまざまな読み方のできる聖書から私たちは何を聞き取るのか。説教者の信仰が問われる。そしてそれを文書にして公にすることは、批判にさらされることであり、勇気の要ることであると思う。執筆された方々に敬意を表したい。

二〇一六年に出版された『説教黙想 アレタイア』92頁(日本キリスト教団出版局)に掲載されたエレミヤ書の連続講解説教黙想の合本である。執筆者は、日本基督教団のみならずホーリネスや単立教会など、多様な背景、経歴、経験を持つ十三名であり、その年齢にも幅がある。

ないのが、まさしく預言者なのである。預言者は、二重の責任に押しつぶされかねない。双方の代表する者として板挟みになるのだ(一三〇～一三二頁)。ここにあるようにエレミヤの苦悩は、世俗化の進む現代に御言葉を伝える伝道者の苦悩そのものであり、また世にあって正しく生きようとする信仰者の苦悩そのものである。

一方、説教者はどれだけ充分に聖書の言葉を伝えることができているのだろうか。「象徴行為は、感覚によって受け取られる言葉である。体験される言葉である」(一五七頁)。これは、エレミヤ書一九章に収められているエレミヤが陶器師の壺を砕く出来事を「象徴行為」と呼んでいるのであるが、「体験される言葉」である象徴行為と同じ出来事が説教の中で起こっていないなければならない。「わたし

「私」ひとりではすることのできない黙想の幅の広がりがある。一冊の中にエレミヤ書のほぼ全体にわたる五十一編の黙想が収められているが、それらに共通するのは、黙想の目的は「いかに説教するか」ということであり、空虚な、あるいは無責任な黙想ではないということである。

執筆者が口をそろえて言うのは、歴史の中で預言者としての務めを負うエレミヤが、今の説教者と重なって見えて来るということである。エレミヤ書が今の教会でいかに語られるべきなのか。説教において語られる言葉を預言と言うならば、礼拝の中で説教者たちは今、何を語るべきだろうか。「エレミヤは、神に成り代わってユダの民に語りかける責任と、ユダの民に成り代わって神に取り次ぐ責任とを合わせ持っている。このふたつの責任を担わねばなら

たちの言葉に、神の言葉の『力』はどのようにして映し出されているのだろうか(一五八頁)とあるように、力のある、説得力のある説教をさせていただくことができているだろうかと反省する。

これを手軽な説教のネタ本とすることのないように自分を律しながら、しかし神のメッセージを聞き取り、思いを深めるための黙想の手助けとして大いに役立てたい。

今という時代。目に見えるものにはしか頼ることができず、それでありながら超越した平安を求めているこの時代に、エレミヤ書はメッセージを発している。だから私も呼びかけたいと思う。「今、エレミヤ書を読もう。エレミヤ書で説教しよう」。(のむら・みのる『日本基督教団鳥居坂教会牧師』(B5判・三三〇頁・本体四〇〇円+税、日本キリスト教団出版局)

キリスト新聞社の本

バックボーン

キリスト教的背景を知るだけで、映画はこんなに面白い!



服部弘一郎◎著

銀幕の中のキリスト教

「一見キリスト教とは無関係に見える映画の中に隠された、キリスト教的テーマやモチーフを追う。」

『ベン・ハー』などの古典的名作から現代ハリウッド映画まで、アニメからホラまで、洋の東西やジャンルを問わず、全49作を独自の視点から徹底解説。「キリスト新聞」Ministry」の連載に「スポットライト」世紀のスクリーン「沈黙」「サイレンス」などの論評と牧師との対談も加えて単行本化。誰もが知るあの名作のもう一つの楽しみ方を見ることができる、他に類のない映画批評集。

A5判・並製・142頁・本体1,700円+税

キリスト新聞社 since 1946

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL. 03-5579-2432
E-Mail. support@kirishin.com

「神さま、辛いよ」と 言えるしあわせ

〈評者〉小見のぞみ



かみさま、きいて！
こどものいのり
大澤秀夫、真壁 巖監修
酒井 薫、望月麻生、吉新ばら執筆

かみさま、

キャンプに きました。

おともだちと いっしょに

ごはんを たべて あそびます。

ワクワク、ドキドキです。

よるは、おうちのひとと はなれて

おとまり します。

ちよつとだけ こわいです。

かみさま、いっしょに いてください。

アーメン。(ぎょうじのいのり「なつのキャンプ」)

子どもの心にある想いを、神さまへの祈りとしてあらわした「こどものためのお祈り集」が出版されました。「こどものいのり」とちゃんと書いてあって、幼児さんと七

八歳の子どもたちが、声に出して読んでお祈りできます。……が、わたしがいちばんに思ったのは、この本は、キリスト教保育を行うすべての園の「せんせい」たち一人ひとりに、必ず手渡してほしいということでした。
レギーネ・シントラーは、宗教教育の大切な要素とは、「儀式や繰り返しを通して、神の傍らにいる安心感を感じて、もたちに伝える」ことだと語ります。そして幼い子どもにとっては、食事の前や、ベッドに入る時、保育室での礼拝など、日々なされている短いお祈りや讃美、フレーズを共にすることが、その小さな儀式になるということです。
そもそも、「幼子」や「乳飲み子」たちの口こそ、イエスさま、神さまをたたえ、祈るものであることは、聖書にある通りです。問題は、大人の方です。
「心の中について——信仰や祈りのように——語るとき、

恥ずかしさを何度も克服しなければならぬのは幼い子どもではなく、むしろ大人の方です。儀式の中に浸りきること、決まった形式、祈禱書や讃美歌を用いることは、その際大きな助けとなります。決まった形式の助けによって、親たちやすべての教師たちはためらいを取り除くことが容易になります。(シントラー『希望の教育へ——子どもと共にいる神』日本キリスト教団出版局)

このお祈りの本を持つことで、ここにある祈りの言葉の助けを借りることができる、そう思います。冒頭の「なつのキャンプ」のお祈りは、お泊り保育の夜にぴったりです。アドベントやクリスマスシーズには、こう祈りたいと思う言葉が、たくさんのお祈り例からみつかります。毎月やってくるお誕生会では、新しい一年が喜びにあふれるように

神さま応援してくださいと祈る「がたん」のお祈りがアレンジできます。頁を繰ることに、「かみさま、わたしたちは、／かみさまがだいすき」そんな短いフレーズも立派なお祈りであることを思われ、祈ることへと励まされます。
新任保育者といっしょにこの本で研修をする、卒園のときには巣立ちゆく年長さんにプレゼントするなど、たくさん使い道が広がります。わたしを含め、日々疲れきっている遠い昔の子どもたちにも、「神さま！」と、どんな時でも呼べるしあわせを、よみがえらせてくれる一冊です。
(こみ・のぞみ 聖和短期大学教授)

(B6判・九六頁・本体一〇〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

ヨベルの新刊案内

ACT による 四六判美装、二五〇円
ハストラウゼンシンガム入門 理論編
 「感情はコントロールしないでしっかり味わう……」
 教会には救いがあるが、癒やしがない。世の中には癒やしがあるが、救いがない。救いのある癒やしは何処に!? 心理療法ACTを用いたその全貌とは?

渡辺善太著作選④
善太先生「聖霊論」を語る
 巻頭論考：聖霊の吹いた「跡」をたどる 大貫隆
 縦横に語りかけた翁晩年の珠玉稿、遂に復刊！
 [第8回配本] 新書判・208頁 1,800円

黒川知文 四六判・336頁・1800円
ユダヤ人の歴史と思想
 世界中で連続と行われてきたユダヤ人迫害と恣意的に解釈された「聖書」、災禍に見るユダヤ人固有の諸思想を専門家から詳説。
 *重版出来！

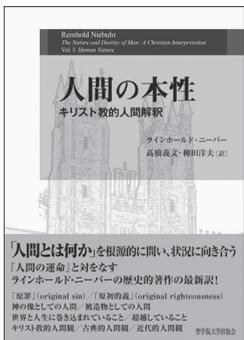
鎌野善三 三
3分間の「福音」
 グッドニュース
 〈聖書通読のためのやさしい手引き書〉

3分間のグッドニュース
 聖書全巻の一章ごとの要諦を3分間で読める平易なメッセージにまとめて、「聖書新改訂2017」に準拠した改訂第3弾！ [全5冊] [律法] [歴史] [詩歌] [預言] [福音]。
 [歴史]、[詩歌]篇 次回は「律法」の予定
 好評発売中！ A5判・304頁・1,600円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
 出版の手引き / 呈 (税別)

読みやすく堅実な
訳業に感謝して！

〈評者〉 千葉 眞



人間の本性
キリスト教的人間論
ラインホルド・ニーバー著
高橋義文、柳田洋夫訳

このたび高橋義文氏と柳田洋夫氏の翻訳で、ニーバー著『人間の本性——キリスト教的人間論』が刊行された。

これは、ニーバーがギフォード講演に一九三九年の春と秋に招かれ、エディンバラ大学で行った二期にわたるそれぞれ一〇回の講演に基づいて執筆された *The Nature and Destiny of Man*, Vol. I: Human Nature, 1941. Vol. II: Human Destiny, 1943. の第一巻の訳である。第二巻は先に『人間の運命——キリスト教的歴史解釈』（聖学院大学出版会、二〇一七年）として刊行されている。ニーバーのキリスト教神学と社会倫理学の業績は多岐にわたるが、これが主著であり、二〇世紀のキリスト教神学の古典であることは研究者の間で一致を見ている。

第一巻の翻訳に関しては、今回の高橋・柳田訳が初めてではなかった。一九五一年に武田清子訳『キリスト教人間

観 第一部・人間の本性』（新教出版社、一九五一年）が出版されている。さらに野中義夫訳『人間の本性と運命 第一巻・人間の本性』（産学社、一九七三年）も刊行されている。第二巻については、上述の二年前の高橋・柳田訳が唯一の刊行された訳書ということになる。

本訳書で特筆しておきたいのは、訳文の堅実さと信頼性である。時として複雑な弁証法的な神学的思考が随所に見られ、さらに古代から現代に至るまでの幾多の宗教的・哲学的・思想的潮流との緻密な対話がなされる内容だが、全体の翻訳それ自体や訳語の選択などもすぐれており、読んでいて分かりやすい。そして完備された数多くの訳注は、読者への貴重な助けとなっている。お二人の訳者（および他の助力者の方々）の尽力にも感謝したい。

紙数の関係もあり、ここではニーバーのキリスト教人間

論の要点について簡単に記すだけに留めたい。それは、①「神の像」による人間の自己超越（霊⇨精神の自由）、②神に創造された存在者としての人間の有限性（被造性）、③人間の原罪に基づく罪性（悪への傾向）という三要素から構成される周知のニーバーの議論である。この三要素から成るキリスト教人間論は、全体（序文と全一〇章）で繰り返される本書の執拗低音（Basso obinato）であり、その基調と対比して、近代思想の諸潮流（とくに合理主義、自然主義、ロマン主義の諸系譜）の問題性を闡明するという本書の課題が、浮き彫りにされ、際立たせられることになる。評者は今回の熟読を通じて、ニーバーのキリスト教人間論の説得性と現実性に、改めて共感を覚えずにはいられなかった。①の自己超越のゆえに人間は自由の主体であり得、神との対話と共生の歩みが可能になるという人間の基礎的条件は、今日の意味喪失と価値ニヒリズムの時代に人間の生を支え、意味と希望を与える不可欠な源泉として理解できるであろう。

②の人間の有限性（被造性）の現実、精神と知性と身体

の統一性を保証すると同時に、①の人間の自由と自己超越からしばしば生じるその誤用や偽装としての傲慢（ヒュブリス）・自由の墮落を抑制し制御する役割を果たす。これはまた他の被造物との共生へと人類を促す不可欠な根拠となり得るものであり、今日では自然との共生やエコロジー的価値の源泉となるものでもある。

③の人間の罪性であるが、ニーバーが述べるように、近現代人はこの原罪の教理はもとより罪の教理にも拒否反応を示してきた。しかし、現代世界の集合的悪や問題の数々——二つの世界大戦、核兵器の惨禍、持てる国々（人々）と持たざる国々（人々）の構造的格差の広がり、エコロジー危機の深刻化など——を想起する時、近代思想の諸潮流がその要因と見なす制度的欠陥や理性的解決の不足だけでなく、より深刻に、人間諸個人と諸集団に巣食う悪への傾向性を問題視せざるを得なくなるであろう。

こうして八〇年ほど前に書かれた本書は、透徹した神学的考察のゆえにか、キリスト教人間論の古典として、当時にまさして説得的にアピールする多くのメッセージを備えていると思われる。（ちば・しんニ国際基督教大学特任教授

（A5判・三八四頁・本体三七〇〇円＋税・聖学院大学出版会）

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www.jb-shop.com	zenrinkan_syoten_0530@afoc.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・17F	022-223-2736	共用	http://www.keisen.christian.jp	fcqwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722	http://www.avaco.info	seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.taishindo-books.jimbdo.com/	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://biblehouse.jp	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cbs/index.html	sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cbs/index.html	kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mex.htm	kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用	http://www.okinawacbs.com/	k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環郡読字嶺777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2019年6月～2019年7月) (定価はすべて本体価格+税)							
編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日	
吉田 隆	ただ一つの慰め —『ハイデルベルク信仰問 答』によるキリスト教入門	四六	320	2,300	教文館	6/10	
マリオ・トルチヴィア著 北代美和子 筒井砂訳 ／高祖敏明監訳	ジョヴァンニ・バッ ティスト・シドティ —使命に殉じた禁 教下最後の宣教師	四六	320	2,400	〃	6/30	
片柳 弘 史	ぬくもりの記憶	B6変	139	1,000	〃	6/30	
ミラ・ゾンターク編	〈グローバル・ヒスト リー〉の中のキリスト教 —近代アジアの出版メ ディアとネットワーク形成	A 5	296	5,200	新教出版社	6/22	
ヴィクトール・フランクル著 赤坂 桃子 訳	夜と霧の明け渡る日に —未発表書簡、草稿、講演	四六	306	2,400	〃	6/30	
G.ジョーンズ他著 岡谷和作、藤原淳賀訳	赦された者として赦す —シリーズ 〈和解の神学〉	四六	168	1,800	日本キリスト 教団出版局	6/7	
大澤 秀 夫 真壁 巖 監 修	かみさま、きいて! —こどものいのり	B 6	96	1,000	〃	6/20	
大嶋 重 徳 陣内大蔵他著	主よ、用いてください —召命から献身へ	四六	154	1,500	〃	6/24	
津 曲 真 一 細田あや子編	媒介物の宗教史〔下巻〕 —宗教史学論叢23	A 5	376	4,000	リ ト ン	6/20	
服部 弘 一 郎	銀幕の中のキリスト教	A 5	142	1,700	キリスト新聞社	6/1	
後宮 松 代	恵みに満ちた贈り物	四六	144	1,200	〃	6/7	
芳 賀 力	神学の小径Ⅳ —救済への問い	A 5	418	4,300	〃	6/14	
佐々木 炎	どん底から見える希望の光	四六	166	1,000	〃	6/18	
工 藤 信 夫	トウルニエを読む! —キリスト教の人間理解 の新たな視点を求めて	四六	234	1,500	ヨ ベ ル	6/20	
福 田 節 子	50年以上前から あった「心のノート」 —子どもたちと教師の記録	四六	376	1,800	〃	6/30	
森 清	ひとりでも最後まで自宅で	B 6	180	1,300	教文館	7/20	
山 根 道 公	遠藤周作と井上洋治 —日本に根づくキリ スト教を求めた同志	四六	216	2,000	日本キリスト 教団出版局	7/25	
広 田 叔 弘	詩編を読もう上 —嘆きは喜びの朝へ	四六	224	2,000	〃	7/25	
山 下 壮 起	ヒップホップ・ レザレクション	A 5 変	264	3,200	新教出版社	7/31	
ジャン・カルヴァン著 関川泰寛監修 堀江知己訳	アモス書講義	A 5	390	5,000	〃	7/31	
M.C.ニール著 三ッ本武仁訳	天国からの帰還	四六	256	1,600	ヨ ベ ル	7/10	

福音と世界

2019年10月号

特集 朝鮮半島と日本のあいだ

寄稿者＝菊地夏野、倉橋耕平、長尾有起

金村詩恩【取材在日本韓国YMCA】

報告 もう一つの宗教改革発見の旅 日本・ドイツ

ツ・スイス教会協議会（菊地純子）／好評連載

バビロンの路上で Confessors of a Son of a Preacher

Man（マニエル・ヤン）、福音の地ト水脈（町田

康）、神の酒（石井光太）、教父学入門（上井健司、

わたしはロックがわからない（山口政隆）ほか

A5判・本体 588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から



『教会生活の処方箋』（辻宣道著・

日本キリスト教団出版局）という本を

読んでいます。初版が一九八一年、と

あるから、私の生まれる十年以上も

前だ。最近出版された教会形成につ

いての本のモデルにもなったという。

「聖日軽視は信仰生活の赤信号」献金は信仰のバロメーター

など私には時代錯誤？ と感じられる見出しも目立つ。他

にも子育て、教会員の交わりについての苦言や、謝儀に至る

まで、現役の牧師がよくここまで、と思うようなことが詰

まっている。また現在なら「考えてみる必要があるのでは？」

などと書くだろうところも、ストレートに「けしからん」「こ

の不謹慎」と……。しかしこの厳しい言葉たち、不思議と

予告

本のひろば

2019年11月号

本・批評と紹介

H・J・クラウク著『EKKK新約聖書註解XXVIII
／2「ヨハネの第二、第三の手紙」、芳賀 力著
『神学の小径IV』、青山学院大学総合研究所キリス
ト文化研究部編『贖罪信仰の社会的影響』、福
田節子著『50年以上前からあった「心のノート」
服部弘一郎著『銀幕の中のキリスト教』、森 清
著「ひとりでも最後まで自宅で」他

嫌気がしない。むしろ新鮮で、良い意味で痛いところを突
かれ、著者と対話しているような読後感を味わえた。

社会が今、言葉に求めているのは、批判を避けるための
配慮や、誰も傷つけない、やさしさのように感じる。誰と
も争わず、否定せず、尊重し合う。聞こえはよいが、もし
かしらたらその空気が妥協や忖度を生み、逆に、ヘイトなど
暴力めいた言葉が人を惹きつけているのかもしれない。

本書の著者も、「乱暴な言い方」をしたと認めながらも、
あとがきでこう語っている。「ひとにはひとの立場があり、
私には私の立場があります。それをつきあわすことの中で
歴史の前進ははかれると考えます」。正しいと思うこと
をはっきりと表現せよ。セピア色になった本は、そう語っ
てくれたように思う。（桑島）

「敵への報復を訴えることば」は、果たして祈りなのか—
詩編研究で知られる旧約聖書学者の本邦初訳書

復讐の詩編を どう読むか

E. ツェンガー 佐久間 勤 訳

「詩編」を読む人が一度は躓き、問いを覚える「敵への報復や復讐を願うことば」。詩編の歌い手が置かれていた時代や状況、テキストの分析を通して、著名な旧約聖書学者がそれらに挑む。礼拝や典礼においてこれらの詩編を実際に祈るための提案もなされる。小泉 健氏による本書の意義について論じた寄稿も収録。

◆A5判・上製・216頁・本体3,600円＋税

E I N G O T T
復 讐 の
D E R R A C H E ?
詩 編 を

FEINDPSALMEN VERSTEHEN

ど う 読 む か

ERICH ZENGER

E. ツェンガー〔著〕 佐久間 勤〔訳〕

日本キリスト教団出版局

2019年9月25日刊行予定

2019年夏

キリスト教
専門書店限定

教会音楽フェア

9/30
月 まで

フェア対象商品全26品から、合計**10,000円(税別)**以上お買い上げで、
ご購入総額の**10%相当**の商品を、フェア対象品から選んでもらえます!

対象商品は書籍に楽譜、CD、小歌集など、
有益で役立つ商品を厳選!

詳細はホームページをご覧ください。
<http://bp-uccj.jp/publications/2019cmf/>



読み取って
簡単アクセス!

フェアにあわせて
品切れタイトルを特別重版!

- 教会音楽ガイド
- 讃美歌21合唱曲集 3
- 讃美歌21合唱曲集 6



一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇一九年十月一日発行 毎月一回一日発行
本のひろば 第七四二号 二〇一九年十月号

9月の新刊 (価格表示は税抜)

現代人のための
信仰の手引き



ハイデルベルク信仰問答との対話
信仰の宝を掘り起こす
G. プラスガー 著 芳賀力 訳
16世紀に書かれた『ハイデルベルク信仰問答』を対話の相手としながら、キリスト教理解に大切な14の主題を解説。多元主義社会を生きる現代人のための信仰入門書。
● 四六判・320頁・本体2,900円



近代日本にとつてのキリスト教の意義
明治一五〇年を再考する

近代日本の成果と蹉跌を振り返り、キリスト教がそこで果たした役割を再考し、次なる時代の課題を考える。2018年に開催された大きな話題を呼んだ連続講演会の記録。
● A5判・184頁・本体1,500円

日本キリスト教文化協会編



労働者の司教ケテラーとその時代
十九世紀ドイツの社会問題とカトリック社会思想

産業革命の時代に、宗教、政治、社会の諸問題と誠実に向き合い、教会の果たすべき役割を提起したマイニンツの司教ケテラーの思想と行動を解き明かす。
● A5判・328頁・本体5,000円

桜井健吾 著

発行所 〒104-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3360-1651 振替001-701-512679
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 鶴平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3360-1657

好評既刊

ウイリアムス神学館叢書Ⅰ
今さら聞けない!? キリスト教 礼拝・祈祷書編
聖公会の礼拝と祈祷書について知るならこの一書! 吉田雅人 著
豊富な写真・図資料を用いながらQ&A方式で素朴な疑問に答えます。
長らく品切れとなっていた
聖公会出版版の復刊です。
● A5判・352頁・本体2,000円

ウイリアムス神学館叢書Ⅱ
今さら聞けない!? キリスト教 聖書・聖書朗読・説教編
聖書を書いたのは誰? 聖書朗読で気をつけることは? 黒田裕 著
説教とは何? 知りたいけど聞きにくい疑問に一つ一つ丁寧に答えます。
● A5判・210頁・本体1,500円



ウイリアムス神学館叢書Ⅲ
今さら聞けない!? キリスト教 歴史編 菊地伸二 著
イエス・キリストの教えはどのように伝えられ、現代を生きる私たちに問いを投げかけているのでしょうか? トピックズとともに、年表と地図で把握するユニークなキリスト教史!
● A5判・190頁・本体1,300円

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549 (出版部直通) 《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館)
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで!



定価七八円(税抜七二円) (¥62円)
一年分一三〇〇円(送料共)